



わたしの聖戦

女性が働くことについて

142

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

「数」の魔力

ある事象を把握するとき、事実関係やイメージも大切だが、ときに具体的な数字を用いることで違った側面が見えてくるものである。

例えば、昨今耳にすることが増えた「ストーカー」。

昨年25年の、全国の警察や関係機関に寄せられた相談件数は過去最高の2万を超えたという。2〜3カ月に一度くらいの頻度でストーカー殺人事件のニュースが飛び込んでくるので、この驚きの数字は事実と即しているように感じる。相談の中で、被害者の8割は女性だということも、殺人事件の加害者がほとんど男

性であることとマッチする。

ところが、15年間にわたってストーカー関連のカウンセリングとサポートを実践してきた小早川明子氏によれば、相談者（加害者）の半数は女性だという。つまり、事件そのものの加害者は圧倒的に男性が多いが、ストーカー気質は男女変わらないことになる。いったいこれは何を意味するのか？

また、近年柔らかい食べ物が増えてきたために、嘔む回数が減っており、嘔む力も弱くなっているという。ではいったいどのくらい減ったのか。同じ献立の食事を食べると

仮定し、有史以来の変化を示すシミュレーション実験によれば、卑弥呼の時代では4000回嘔んでいたのが、今や600回ちよつとだという。どうやら争いの多い時代には嘔む回数が増え、平和な時代になると回数は減る傾向にあるようだ。嘔

字も私たちを驚愕させた。800万人の内訳は、認知症患者が462万人、まだ患者とはいえないが、放っておけばいずれ認知症になるとみなされている人が400万人と推計されている（ついでに言えば、患者462万の数字もサンプル調査に基づく推定数字である）。つまり、患者と予備軍あわせて「認知症800万人時代」と報道され、世間を愕然とさせたというわけだ。



む力と歴史上の騒乱は何か関連があるのだろうか？ 国民対象のアンケートで、一番怖い病気は何かとの問いに対し、トップはがん、次いで認知症と続く。日本の認知症患者は予備軍を含めると800万人といわれ、この数

そのまま反映させた数字とはいえないのでは？ と疑問も沸く。では、800万人とはどれくらいの規模なのか。日本の都道府県別にみると、800万人を超える人口を抱えているのは東京・神奈川・大阪の3

つのみで、それ以外の県はすべてそれに満たない。最も人口が少ない鳥取は約60万人弱。800万とはその13〜14倍に相当するのだから、恐るべき事態であることは間違いない。患者462万人だけに絞っても、47都道府県のうち38の県の人口はそれ以下だ。462万人に近いのは福岡の500万人であり、仮に福岡県人口の全員が認知症であると考えれば、やはり無視できない実態ではある。

数字に強い人間は頭が良く見えるという。確かに。しかし問題はその先にある。導き出した数字の意味するものや必要な対処法をどうするか、が実は一番問われるはずだ。数字を追及することで新しい発見もあるとはいえ、数の魔力に陥ることは避けなければならぬ。とかく、この世は難しい。

イラスト・伊藤栄章